

ある日の出来事

青色海石化美術館
The Blue Petrochemical Museum

one day

青色海美術館へようこそっ♪

アタシはあ

当美術館オーナーのお娘

青色 アリサでくす♡

えっとねえアタシをお

いますぐブチ犯したい人お

この指止くまれえ♡♡

あはっ♪




「わめくくらいっぱいきたねっ♡♡」

「お兄さん達い
そんなにアリサを犯したいのおっ？
アリサ怖い♡♡♡」

ロロロ

ロロロ

ロロロ



「アリサが上になってえ？
どっつするのぉ？」

「あはあ♪」

「ひひひ、どうしよっかなあ」

「はははッ!!」

「うひひ」

「あっ……♡
オチンチン増えちやっただねえ」

「同時に3本とがあ
アリサを壊す気マンマンだね♪」

「わっわっわ♡スツゴイおっきい」

ズッ

「ほれほれえ〜
入っちやうぞお」

「極太オチンポでえ
犯されちやうつ♡♡♡」



「あっ♡♡」

っ♡♡





「おっんあぁ」

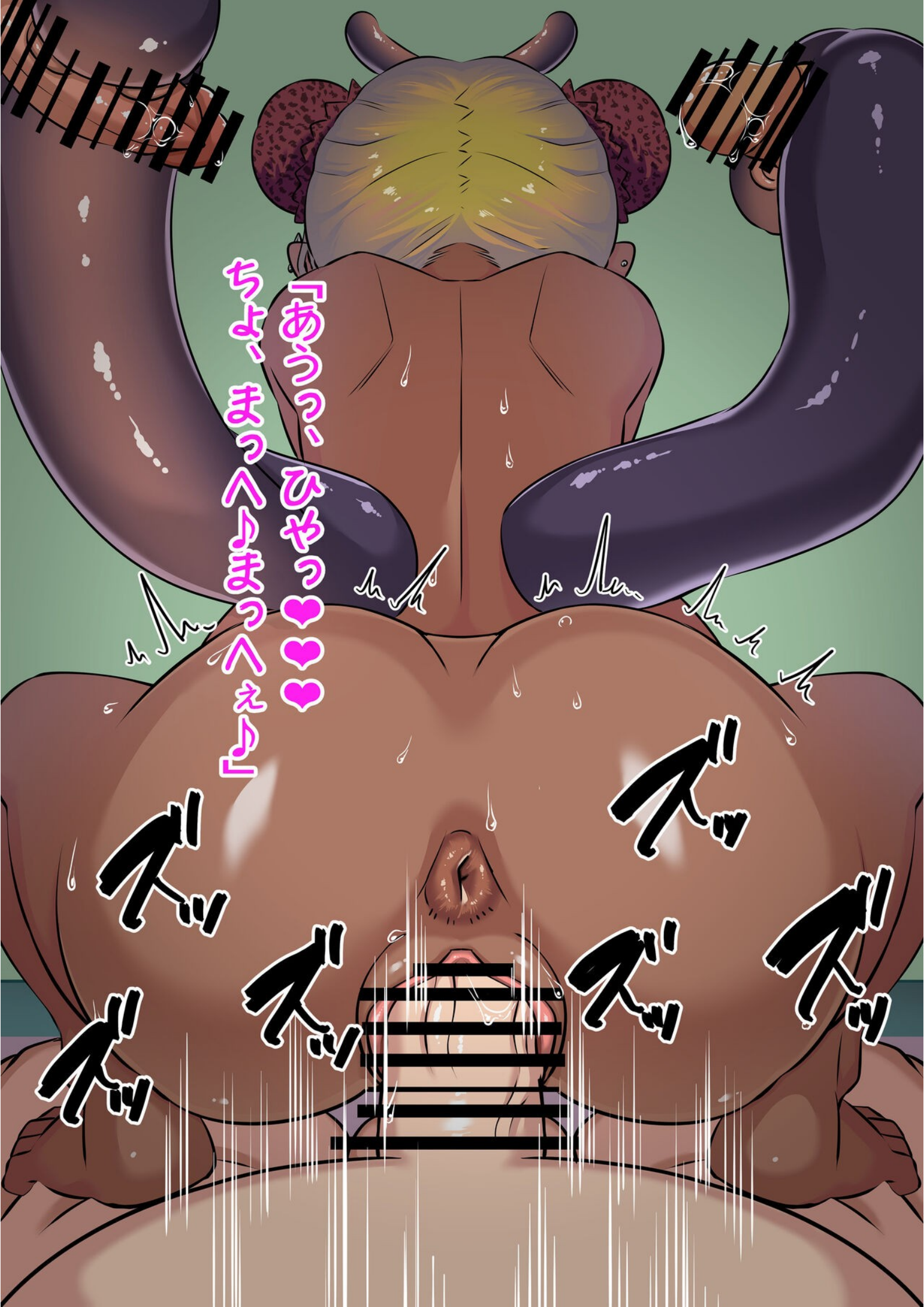
あっ♡」

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



「あうっ、ひやっ♡♡♡
ちよ、まっへ♪まっへえ♪」

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ



ジュジュッ!!

「こっちも
おざなりになっちやあ
困るよお、ひひひ」

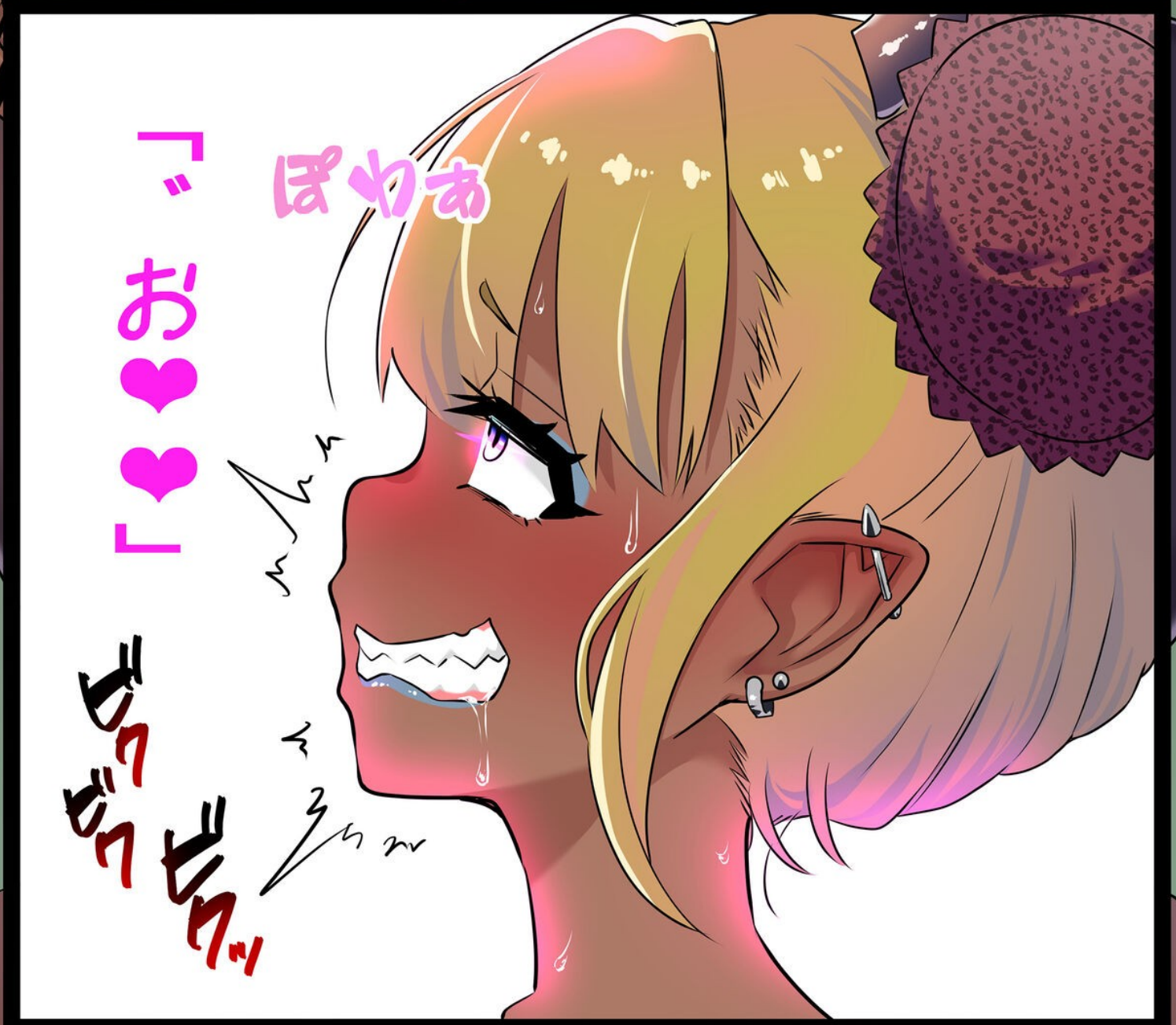


びゅん びゅん びゅん びゅん びゅん びゅん

「はっ、ひゃ♡♡♡」

ズッ ズッ ズッ ズッ ズッ

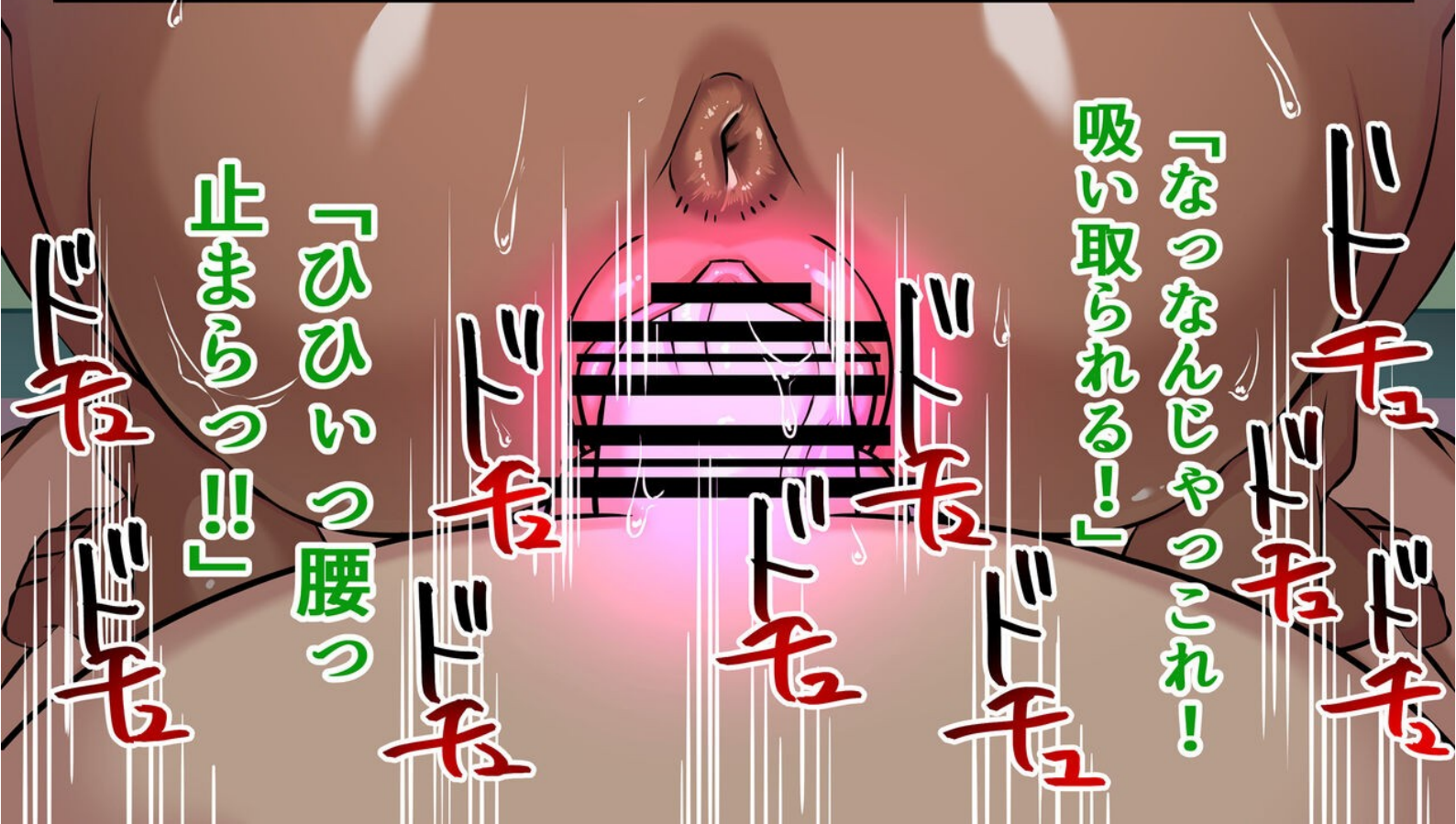
「ほれっほれっほれ」



ぽわあ

「お♡♡」

ゴクゴク
ゴクゴク



「なっなんじやつこれ！
吸い取られる！」

「ひひいっ腰っ
止まらっ！！」

ドチュ
ドチュ

ドチュ
ドチュ

ドチュ

ドチュ
ドチュ

ドチュ
ドチュ
ドチュ



「ひゅひゅっ♡♡♡♡」

ムムムム

ムムムム

ムムムム



「うひひひいっ」

「と、止めっ!」

アリサちやつ!?

あああああ

ズチュ
ズチュ
ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ビュルルルルルッ

ビュルルルルルッ

ひかあ

ばああ

「きよくええええ」

「あっくくく」

「いひいひい」

ツツツツツツツツツ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビュルルルルル

ルッ

「ぎやあああああ」

ばあああああ

「おっひひ」

ふんふん...

「と、止まった.....
た、助かった.....」

どいん...

どいん...

ふんふん...

ふんふん...



「お肌つやつや♡」

「お兄さん達、ご馳走様〜」

ふふ♡♡

ある日の出来事2

青色海石化美術館
The Blue Petrochemical Museum

one day

「わ、わたしに
こんな事してッ!」

「はあ？」

「アンタ何様あ?」

「わたしはテフラ、
ドリームランドの使者で……!」

「……あゝ……」

「アリサわかんなくい!」



ボ
アアア...

青色海石化美術館……

そこは前から黒い噂が立っていた場所だった……

その噂とは……

古今東西、様々な場所で神隠しに在ったであろう女子達が
石像にされているという事……

そんな場所に

潜入調査を依頼されたのは

テフラという獣人の少女(♀)だった



「やっぱり
良いオチンポもってるじゃあん♥
アリサの勘って当たるんだよねえ」

「か、体が動かないッ、
こんな恥ずかしい格好
やめてください!」

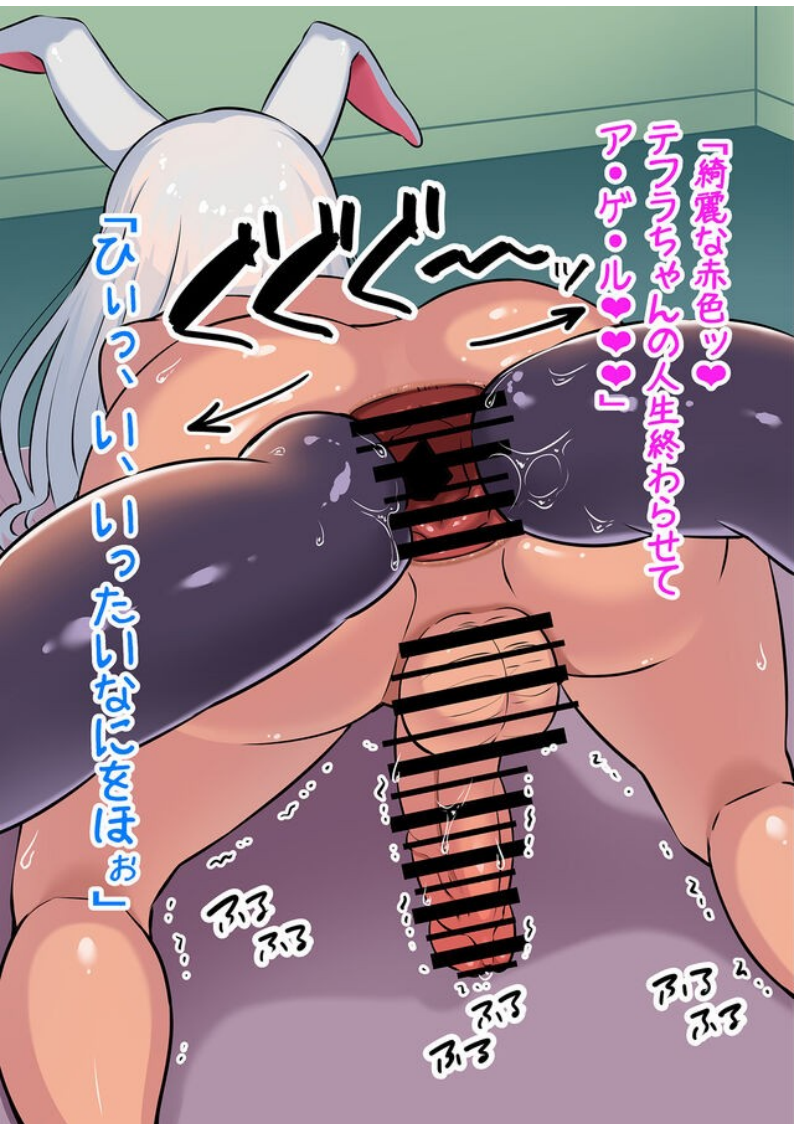


「こ、これ以上...
何をするつもりですう!」

「ああん♥
良い物
持ってそうだしやあ」

「解くわけないじゃんか
じゃあ、楽しもっか♥」

「何を言っッ
は、早く能力を解除して
くださッッ!!」



ある日の出来事3

青色海石化美術館
The Blue Petrochemical Museum

one day



「や、やめれえくだしやいーい……」

「あれれく？」

「まだまともな意識あるんだあ♪」

「ハァ……」

「テフラくん、スツゴイねえ」

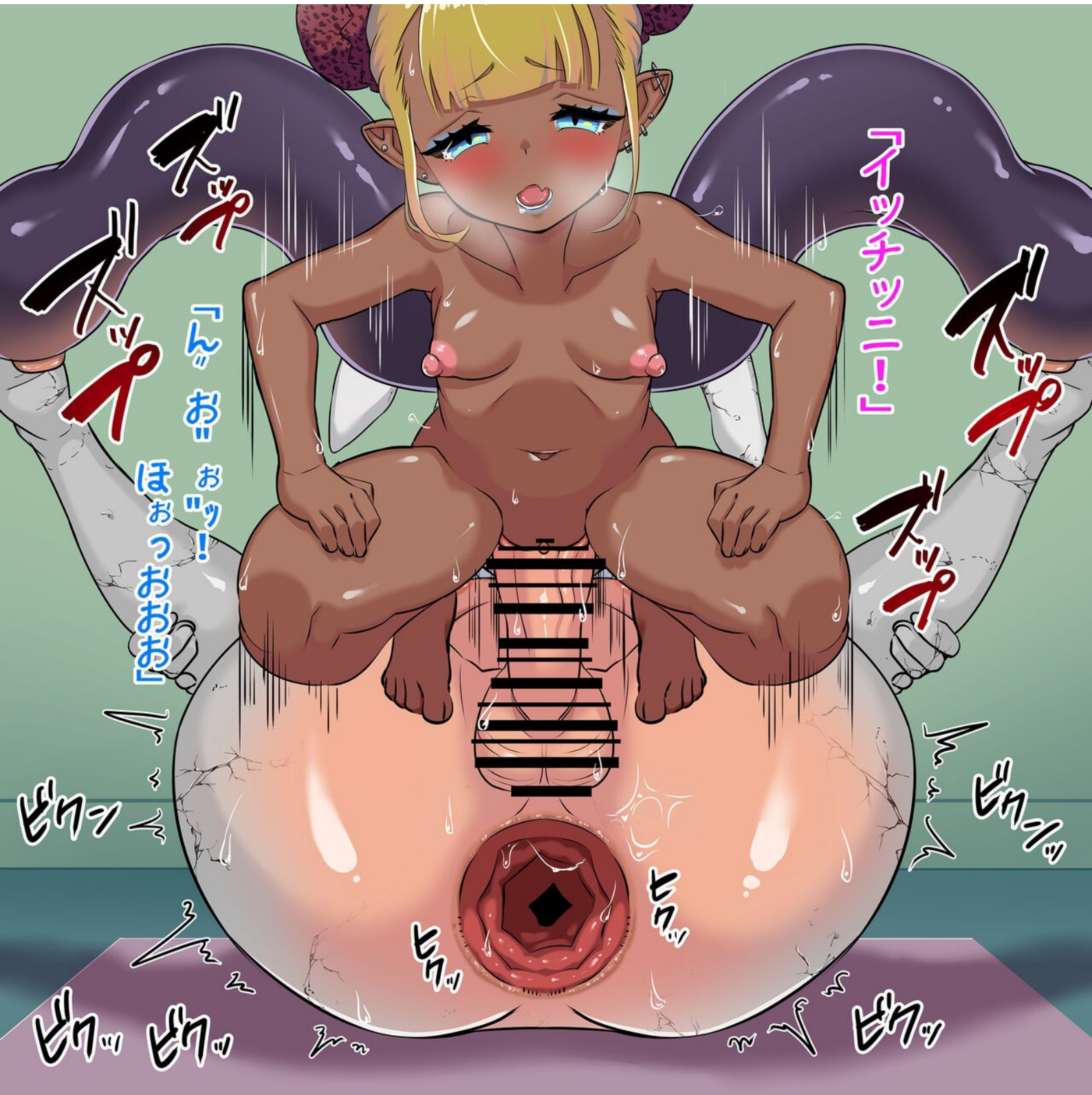
「正気のまま赤ちゃんが」

「育つ過程を噛みしめてね♡」

「やあああああッ」

「ガァ……」

「ガァ……」



「イッチツニー！」

「んおッ! おッ!
ほおっおおお」

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ
ビクッ

ズッ

ビクッ

ビクッ

ズッ

ビクッ



「タン〜〜〜〜〜♡」

「まだまだいくよほおおッ」

ドリンリンリン

チユムユム

!!

ククククク

ククククク



「おっころの♡おっぱい♡ん♡ん♡ん♡」

ミク ミクッ

ミク ミクッ

「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

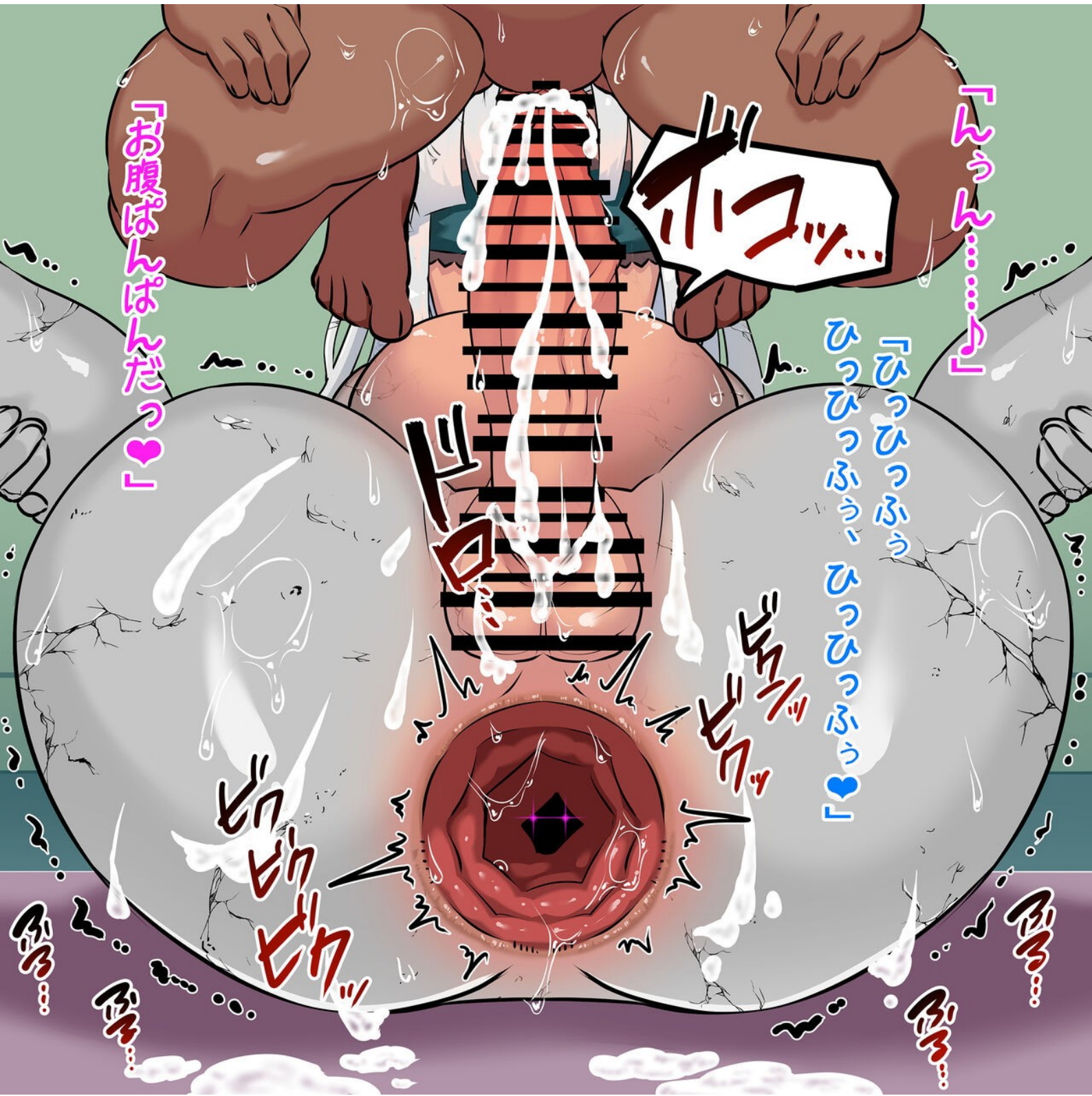
シン シン

シン シン

ガク ガクッ

ガク ガクッ

ガク ガクッ



「お腹ぱんぱんだっ♡」

「んんん...」

「ひっひっふう
ひっひっふう、ひっひっふう」

カッパッパッ

カッパッパッ

カッパッパッ

カッパッパッ

カッパッパッ

カッパッパッ

カッパッパッ



「あとお……ひと押しでえ
赤ちゃん産まれるよお♡」

「ひっひっ♡ひっひっ♡ひっひっ♡」

んん
んん

んん
んん

んん♡
んん♡

んん♡
んん♡

んん♡
んん♡

んん♡
んん♡

んん♡
んん♡

んん♡
んん♡

んん♡
んん♡

んん♡
んん♡



「一番上からめ、いっくんおはなな♡」

「も...もうも...」

「ぐんぐんのお...」

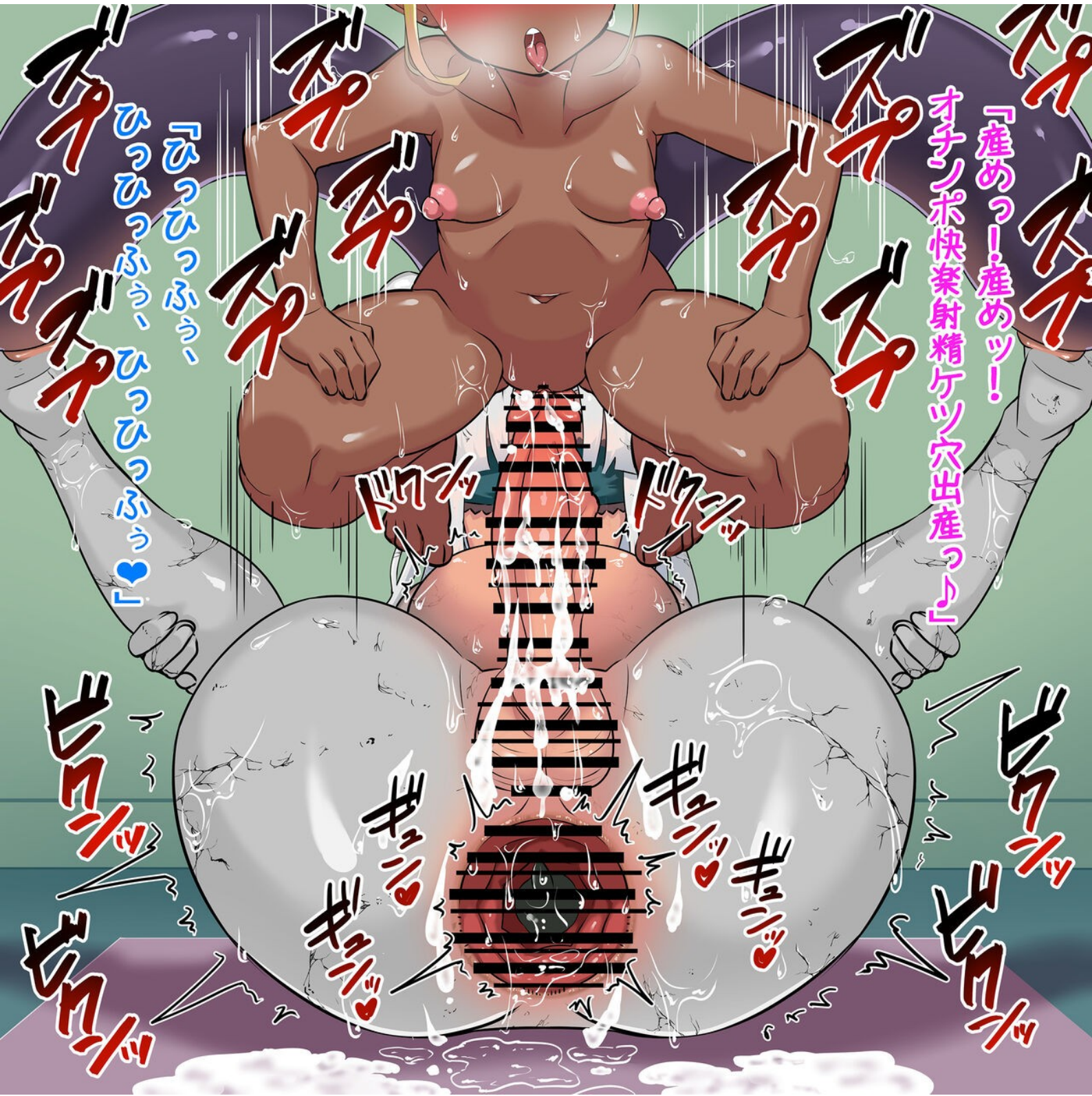
キュン♡
キュン♡
キュン♡

キュン♡
キュン♡
キュン♡

ハート♡
ハート♡

↑
↑

↑
↑



「ようこそお、新世界へ！
可愛い赤ちゃん♡」

「あぁあ……があぁ……」

オ
イ





【ooooo】

「ちゅみみさん」

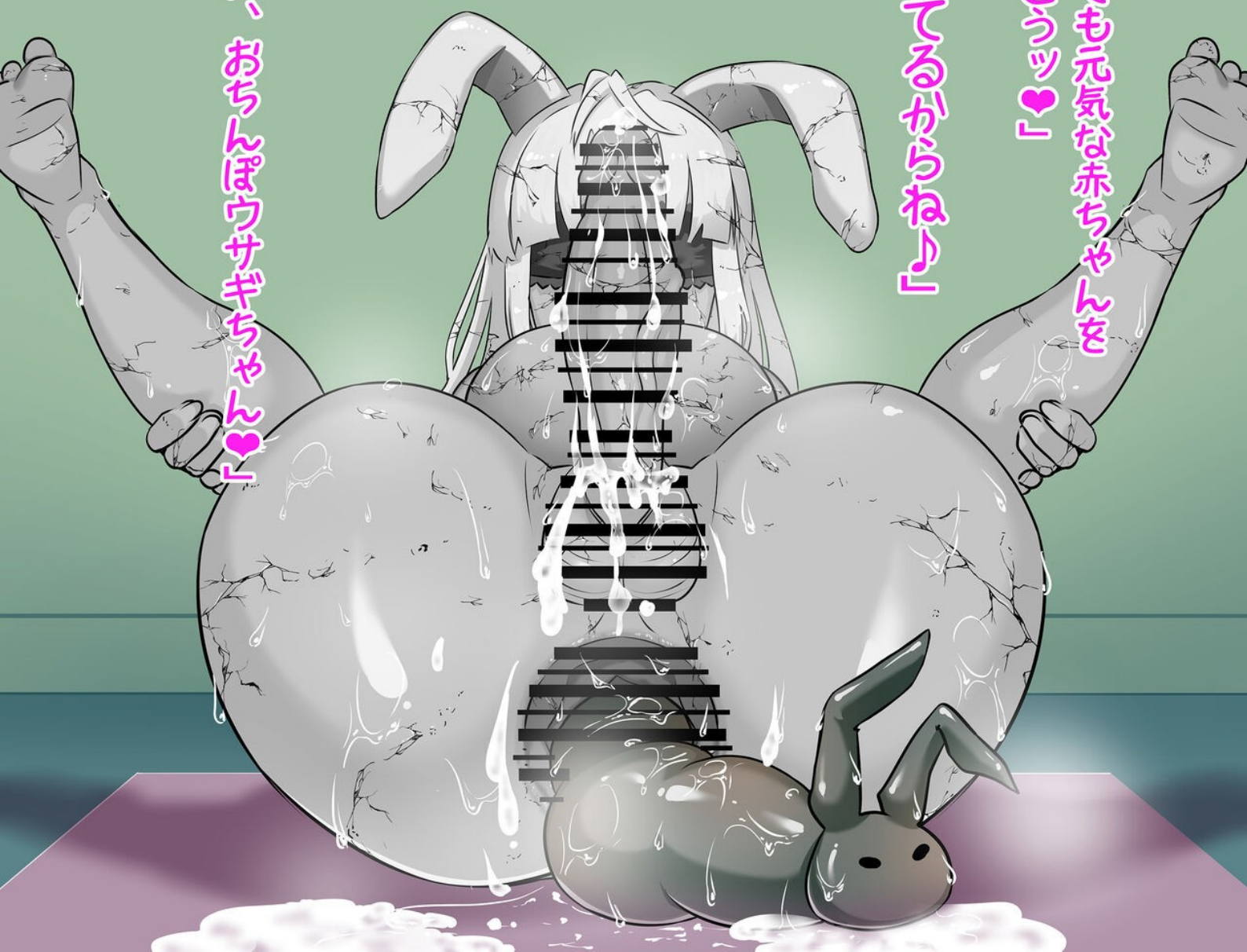
ちゅみみ...

ちゅみみ

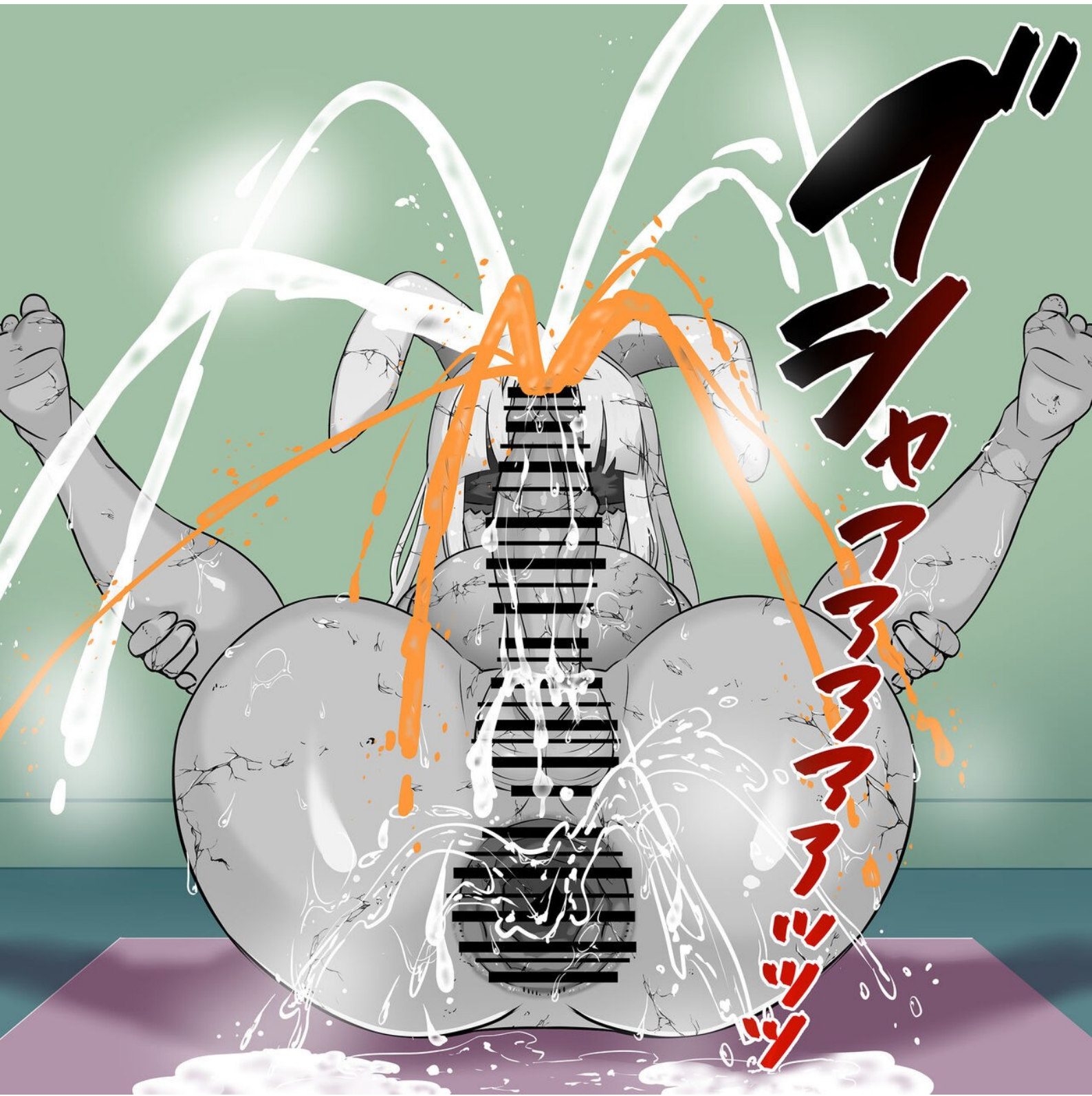
「とっても元気な赤ちゃんを
ありがとうッ♡」

「大事に育ててるからね♪」

「ばいばい、おちんぽウサギちゃん♡」







ある目の

……東烏宿市内……

妖滅学園の英語教師：西園寺響子（32歳）は

教え子の退魔師達が次々と行方を眩ます中

単独で妖魔達の巣くう地下鉄へと乗り込み

その圧倒的な実力で妖魔達を圧倒したまではよかったが……



「よくもウチの可愛い生徒達を!!
Repent and die.懺悔して死になさい!!」

妖滅学園英語教師
西園寺響子 (32歳)



「な、なによ？急に暗くッ!？」

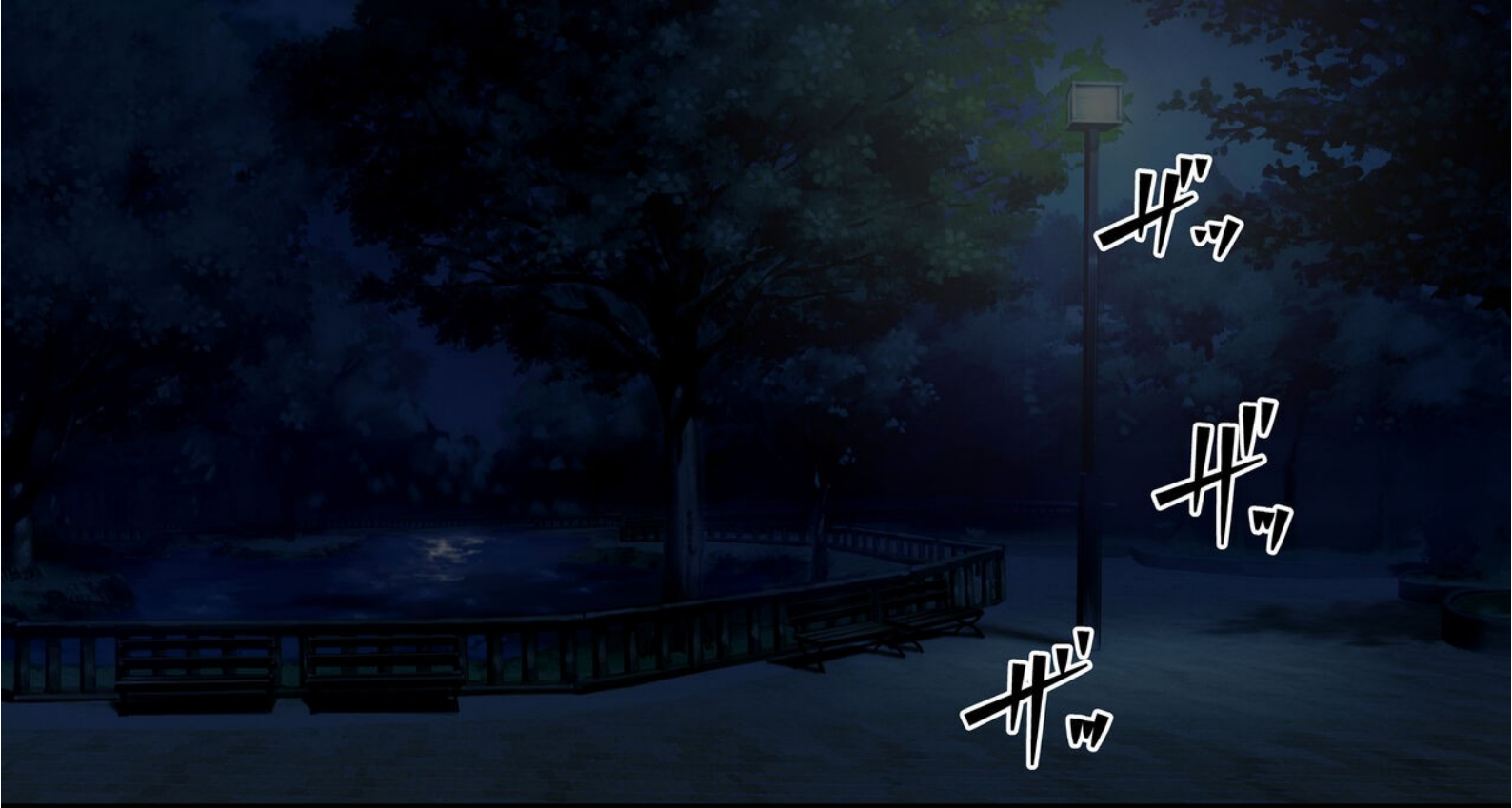
ちよつと……な、なに……よ……

意識が……

クッ耐える







ザッ

ザッ

ザッ

まさか……

こいつら私を……

クソッもう……意識が



ザッ

ザッ

ザッ

うう……あッ……ああ
ようやく効果が抜けたか……
あの状況下で高度な催眠を……



「ふう……Bastardsクソ共
こんな事をして只で済むと思っているのか？」

「私を誰だと思っているんだ？
いま解放すれば命だけは助けてやる」

「……」

「……」

「なッWhat the hell, お前たち
や、やめるおおおおおお」



「へぎやあッ♡♡♡」

ほお♡

ほお♡

「ぎ、ぎさまあああ
ぞ、ぞのおおお汚いdickをおおおほお」

「抜いてッ♡♡♡」

ト
ム
ム

キ
ッ

「.....」

「ふ、うう、んッ、
あっあっあっ♡」

ほ♡
ほ♡
ほ♡

ほ♡

ほ♡

ほ♡

ほ♡

ほ♡

「抜いっでえええへひゃあ♡」

ほ♡
ほ♡

ほ♡

ほ♡

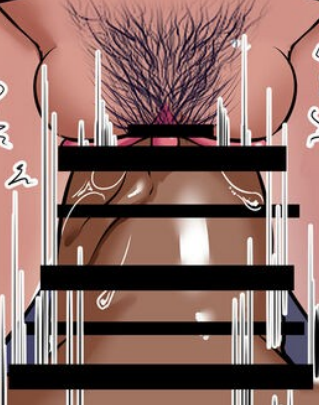
ほ♡

ば♡
ち♡
ん♡

ば♡
ち♡
ん♡

ば♡
ち♡
ん♡

ば♡
ち♡
ん♡





ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

「イグイグっ
いぐううッ♡」

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

ゴウッ
ゴウッ
ゴウッ

「またチンポきたああ♡♡」

ヒュー

ヒュー

ヒュー

ヒュー

「イっでるうう」

「イってる
最中だからああああ♡」

「.....」

チンポ

チンポ

チンポ

チンポ

チンポ

チンポ

チンポ

チンポ

チンポ



「おひよおおおおおッ♡♡」

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

「パンパンらめええなのおお」

「やんやんやんやん♥」

「.....」

「.....」

「やんやんやんやん」

「やんやんやんやん」





ム

ん!

Mico♡

Mico♡

Mico♡

「おおおおん

おんおん

んおんおん♡♡♡」

んおんおん♡

んおんおん♡

んおんおん♡

んおんおん♡

んおんおん♡

んおんおん♡

んおんおん♡

んおんおん♡

Mico♡

Mico♡

んおんおん♡

んおんおん♡

んおんおん♡

Mico♡

Mico♡

んおんおん♡

んおんおん♡



ムムムムム
♡♡♡♡

ムムムムム
♡♡♡♡

ハ
♡♡♡♡

ハ
♡♡♡♡

ムムムムム
♡♡♡♡

ハ
♡♡♡♡

ハ
♡♡♡♡

ムムムムム
♡♡♡♡

ムム

ハ
♡♡♡♡

ハ
♡♡♡♡

ハ
♡♡♡♡

ハ
♡♡♡♡

ムムムムム
♡♡♡♡

「んおおおお
か、体が変なのおお
変わっちゃううう♡」

「石になっちまえクソ豚女!!」

「ひひひ」

「ほひひひひ」

「おほっ 始まったぞ」



数時間後

イッ
イッ
イッ

イッ
イッ
イッ

イッ
イッ
イッ

「うしッ石化乳便所の完成だッ！」

「いやあ、焦りましたねえ
この乳豚女……結構な手練れでしょう？」

「我々が迂闊な発言や行動をしたら
ワンチャン逃げられる可能性もあったわけですねえ」

「他の支部は、それで潰されてるから～」

イッ
イッ
イッ
イッ
イッ

イッ
イッ
イッ
イッ
イッ





ガッガッ

ガッガッ

ガッガッ
ガッガッ

ガッガッ
ガッガッ

ガッガッ

ガッガッ

「よおし

ここからは楽しむぞおおお
俺が一番～」

ガッガッ
ガッガッ
ガッガッ

「あっずるい！」

ガッガッ
ガッガッ

ガッガッ

ガッガッ

ガッガッ
ガッガッ



ハハハ
ニッ
ン
ン
ン

ハハハ
ン
ン
ン

ハハハ
「ははは」

ハハハ
「ひひひ」

「また谷間かよおお」

どちゃっ!!

「では私は、またマンコを」



誰か……た……す……け……て……

被害者一覧



桜峰 こころ(〇6歳)
バスト 107センチ
総ザーメン量 3ℓ



月ノ宮童子(112歳)
バスト ちっぱい
総ザーメン量 25ℓ



橘 アオイ(〇8歳)
バスト 92センチ
総ザーメン量 5ℓ



西園寺 響子(32歳)
バスト 116センチ
総ザーメン量 16ℓ



桜峰 みらい(〇6歳)
バスト 107センチ
総ザーメン量 3ℓ



エルル・リングール
(77歳)
バスト 102センチ
総ザーメン量 47ℓ



ロジン・ケルピール
(〇7歳)
バスト 78センチ
総ザーメン量 32ℓ



マオル・ハカ
(〇7歳)
バスト 120センチ
総ザーメン量 38ℓ

ある日の出来事4

青色海石化美術館
The Blue Petrochemical Museum

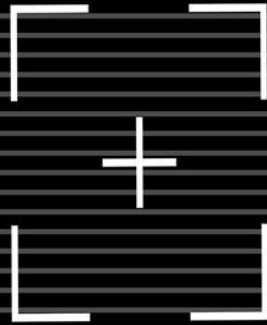
one day



● REC

00:00:21:21

「この位置かなあ？
おっけー♪」



「ハイ みんな元気？
アタシは青色 あみ♪」

REC

00:01:06:57

にこにこ♡

あみ

あみ

あみ



「今日は皆にサプライズがあるの！」

● REC

0:05:03:57

にサ♡

にサ♡

ほよん♡
ほよん♡

ほよん♡

ほよん♡



「オマンコッ、お
オチンチン気持ちいいよおお
もっとお」

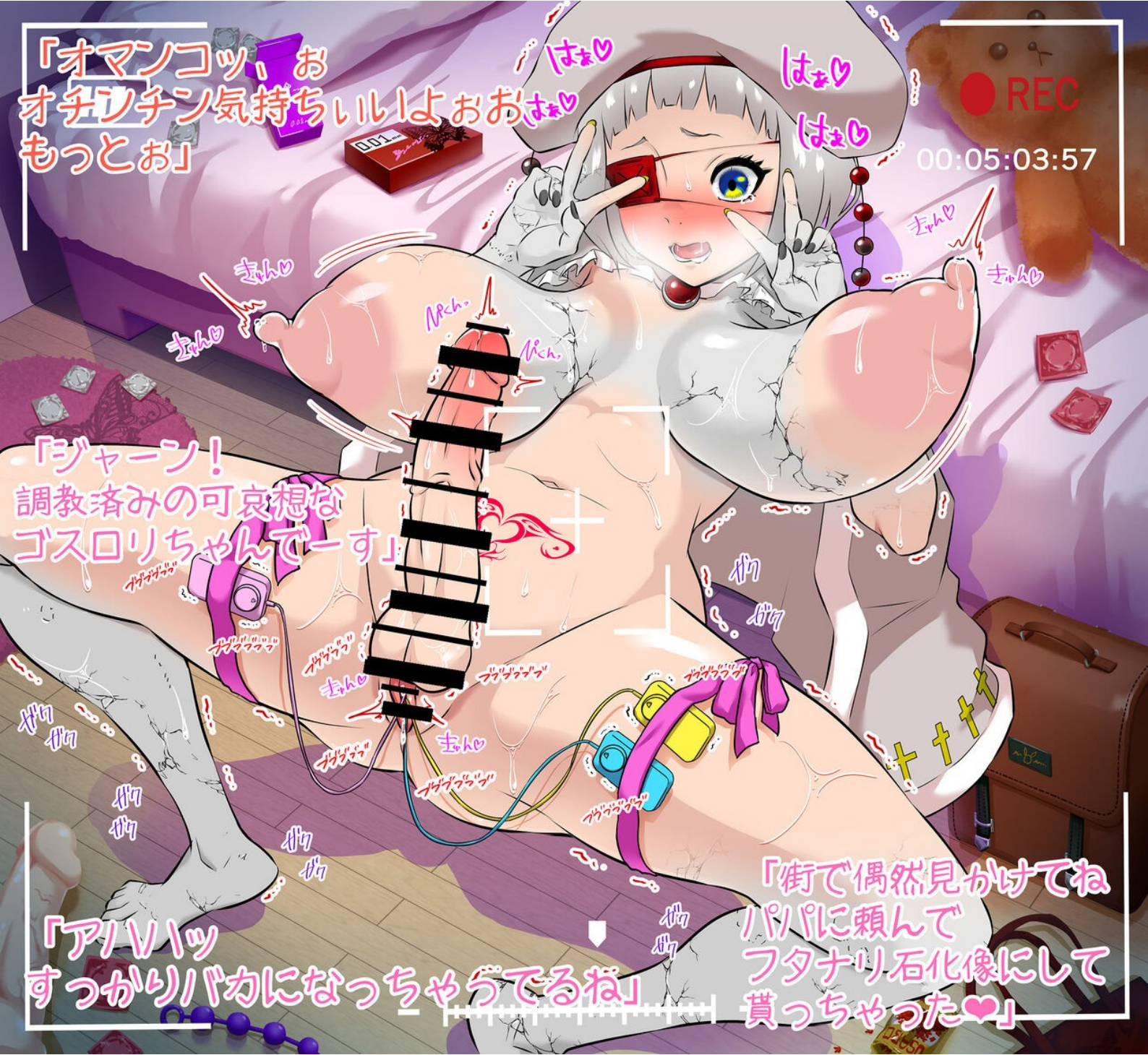
● REC

00:05:03:57

「ジャーン！
調教済みの可哀想な
ゴスロリちゃんです」

「アハッ
すっかりバカになっちゃるね」

「街で偶然見かけてね
パパに頼んで
フタナリ石化像にして
貰っちゃった♡」





「ひゅううう」はぁ♡

REC

00:07:03:57

ズッ

33333!!

「最後の仕上げッ
アタシの足コキで
完全に石にして
ファックトイにしちゃうね」

「皆~この娘が
快樂墮ち石化像に
なるのを楽しんでね~」

「んぎッ♡♡
いぐッ♡♡♡
た、しゆけへえ♡♡♡」

「オチンポミルク
止まらにやつ」

02:57:12:01

まん

まん

ふしや ぬぬぬぬ!!

「ダメ♡♡♡」

「ひぎれいれいれいれ♡」

ガク

ガク

ガク ガク

ガク

ガク



3:02:43:08

「あーん きもちい〜♡
さいっこう♡♡♡」

は♡ は♡ は♡
は♡ は♡

はちゃん♡

はちゃん♡

ま♡ん♡
ま♡ん♡

「この娘とオチンポと
相性バツチリ♡♡♡」

はちゃん♡

はちゃん!

ガッ
ガッ

ガッガッ
ガッガッ

ガッガッ
ガッガッ

はちゃん♡

「ああ〜イグイグイグイグ」

ガッ
ガッ



「いっぱい
潮吹きちゃった♡」

4:17:00:00

あしやあまあまあまあま♡

「アナタも色々
いっぱい出したね♡♡」

ほた♡

ほた♡

物
物
物

物
物

物

物
物



REC

4:36:05:18

「お風呂入ってこよ♡」

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

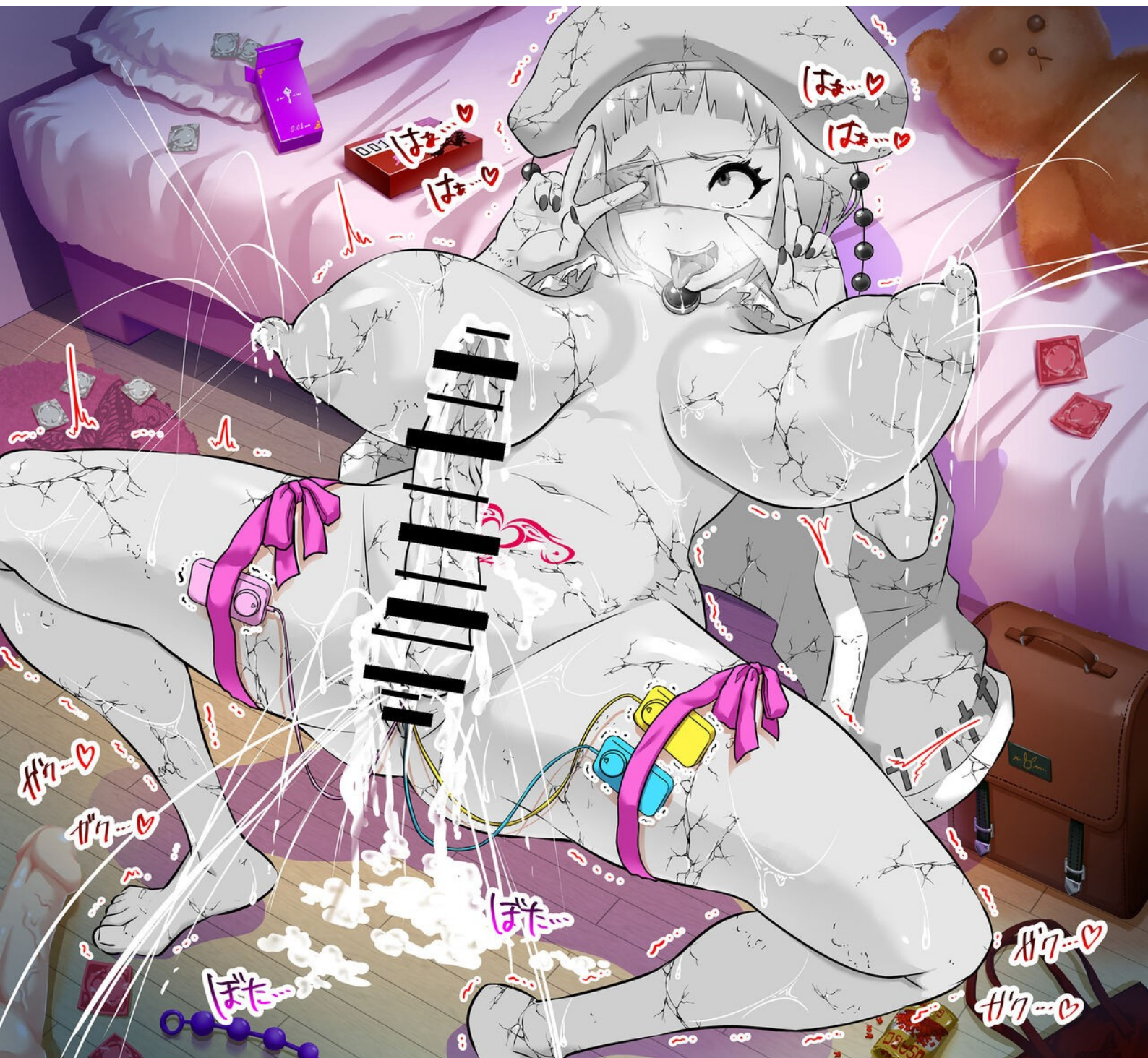
はぁ♡

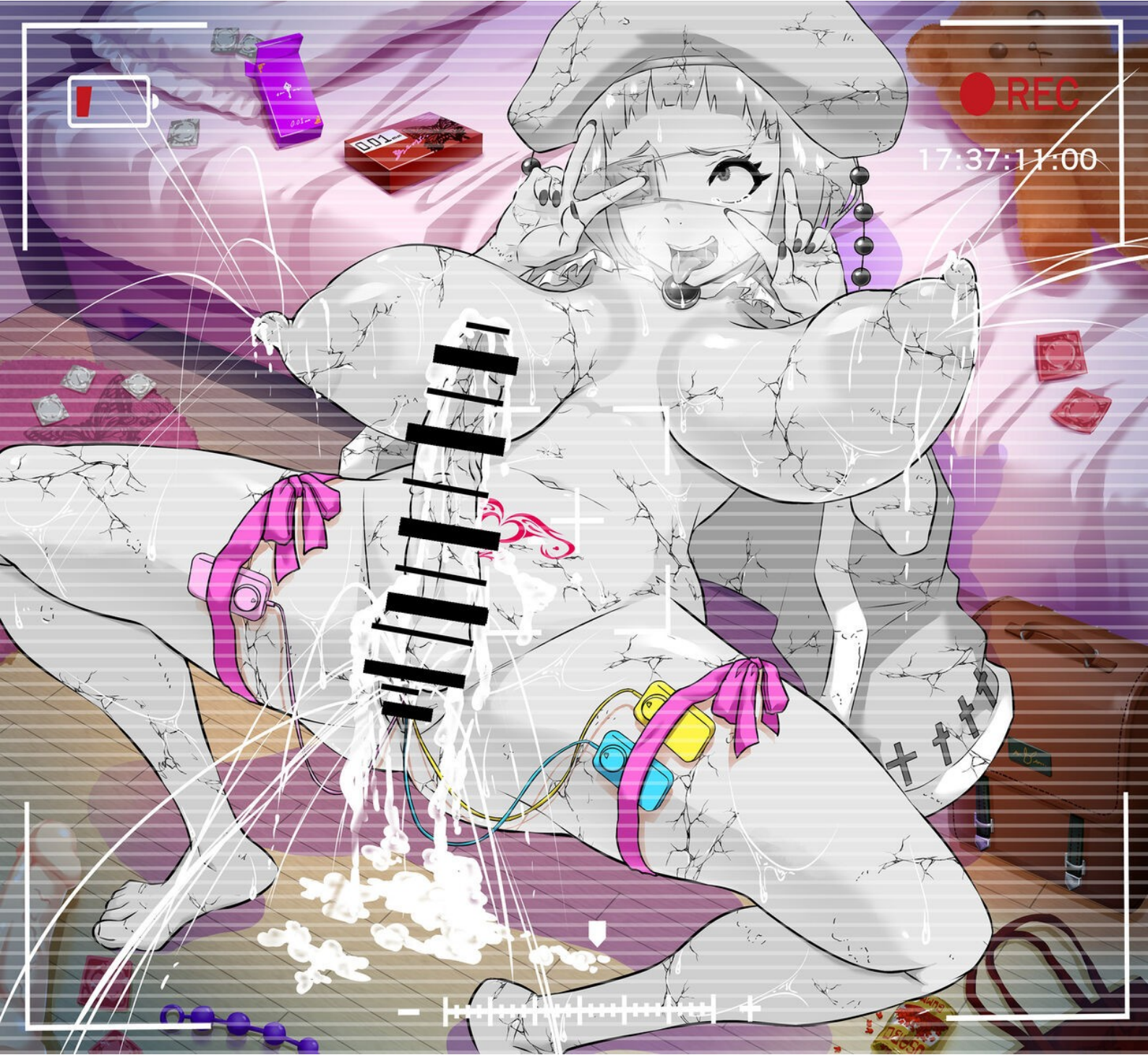
「それじゃっ
皆またね—♡♡♡」

はぁ♡

はぁ♡



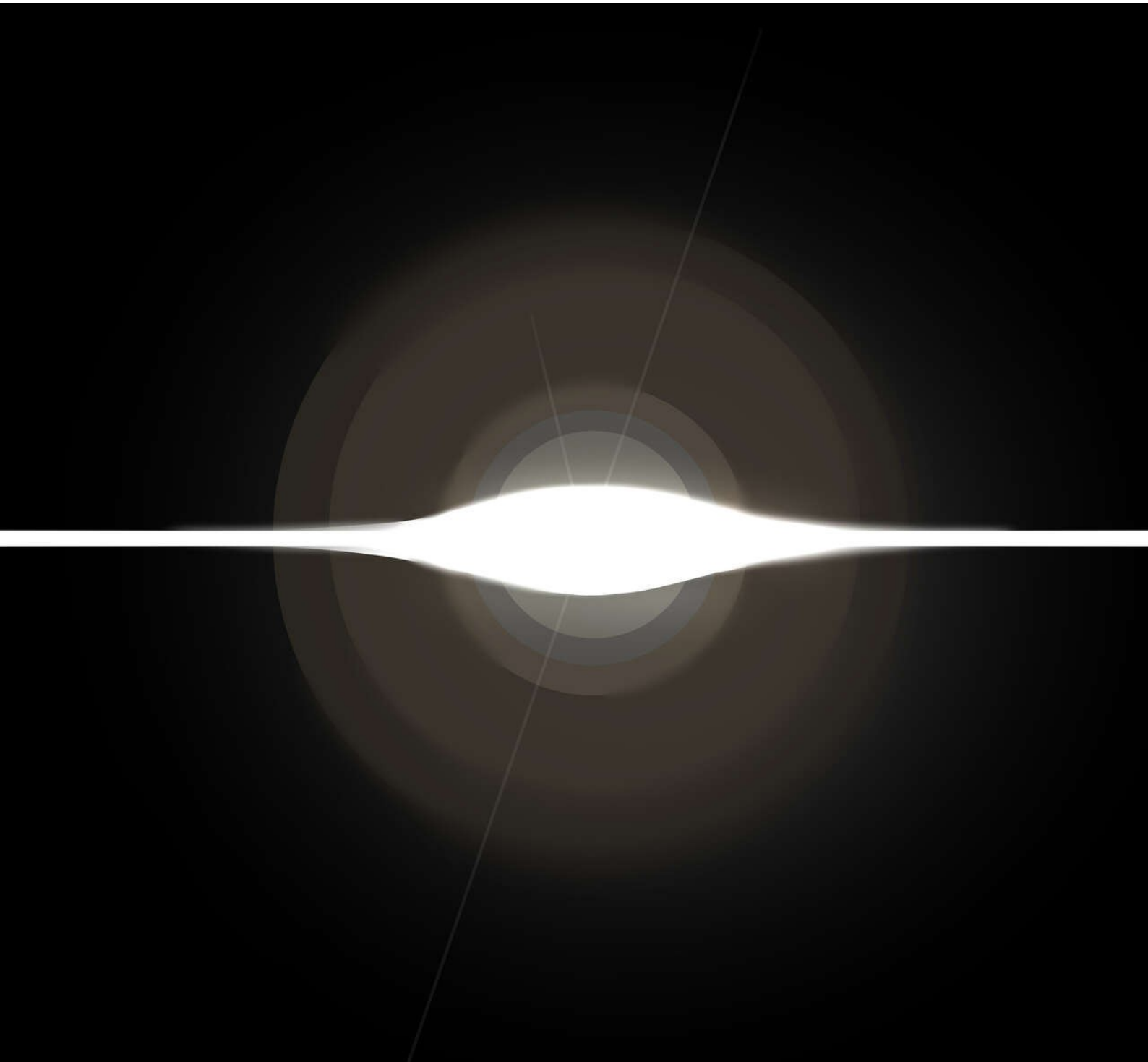




REC

17:37:11:00





ある日の出来事5

青色海石化美術館
The Blue Petrochemical Museum

one day



「ハイ♪みんな元気?
青色 あみDayo」

● REC

00:01:06:57

「サプライズ第二弾〜」

「さ、撮影とか
やめてくださいですう…
や、約束が……」

あ

っっ!

「ちょっと黙ってて
もらえるかなあ……?分かるよね……」

ふるん

ふるん
青色海





● REC

00:03:12:27

「うるさかったよね、ごめんねー
なんだと思う？え、あみの生ハメ配信？」

「ハズレ〜っ♡
正解わあ」

ふん

ふん

青色海

「ジャーン! 魔族の男の娘
深未ちゃんです♡」

REC

06:05:03:57

「撮らないください……は、恥ずかしいので」

「この子ね
友達を探しに
来たんだってさあ」

「あ、あみさん…
お願い……ですう」

「その友達って
あみのバカ妹が
石にしちゃった
テフラちゃんって
子なんだけどね(笑)」

かま…

青色海

「あみは優しいからあ
ある約束をしたの
あみの責めに耐えたら
友達を元に戻して二人で
一緒に帰ってしよよって♡」

● REC

00:10:01:12

「体ちっちゃいのに
良いオチンポ持ってんねえ
それに石化淫紋に
耐えるなんてマジつよッ(笑)」

「そ、そんな…こと……
耐えて、テフラちゃんと帰るのですう」

青色海



● REC

00:12:43:12

「友情って良いよね♪
あみもそういうの大好き！」

「ボクは絶対に
屈しませんですう……」

「アナルヴァージン
奪われたあげく
大量におもちや
突っ込まれて
決意表明とか(笑)」

「じゃあ
はじめよっか♡」

青色海



REC

00:15:03:57

「そおれ
シッコシッコシッコシッコ♪」

「んぐらうう♥」

「どう？
あみの手コキ」

「ちっちゃな体で
必死に耐えてて
可愛いねえ♥」

「……ん……んう…♥♥」

青色海



● REC

00:55:08:35

「あみはねえ
オチンポ見たら
きもちいところ
分かっちゃうんだよ♪」

「深未ちゃんわあ
亀頭と裏筋の間
かなあ？」

「じゃあ一発目
イっちゃおつか♪」

ほいほいおまね...

「ッ……」

青色海





「そおれ☆」

● REC

01:17:41:26

どっぴゅっ

「ん ぎいっ
あは はへ え♡♡」

「耐えれなかったよ？
あーあ、少し石に
なっちゃった♡」

「~~~~♡」

青色海

「まだまだイクよお
シコシコシコシコ♡」

● REC

01:18:39:19

「ふぐうううッ
いぎいッ♡♡♡」

「頑張れ頑張れッ♪
あみは応援してるよッ」

青色海



「アハっ噴水みたい♪」

「ひんぐ、やめっですう、
な、あ”テフラ
ほ、ほめっんなしやい
は—…っい〜っ♡♡」

● REC

02:13:03:37

「にやに言ってるのが
わかんないよお？」

青色海

「石化進行はやッ(笑)」



「最後の1コキ♪
バイバイ深未ちゃん♡」

● REC

05:03:22:35



「.....」

青色海

「ア/V/V/V/V/V
最初から助かる見込みなんて
無いんだよお!!!」

● REC

06:36:15:24

「あみわあ
深未ちゃんみたいな
正直で優しそうで
お馬鹿な子を
石にするのが大好き♪」

青色海

「ああ～楽しかった♡」

● REC

06:40:13:59

「てか、すごいね
ザーメンごと固まるとか
ウケル～」

青色海



「石化好きのみんな～
どうだった？
今回も最高だったでしょ？
あみは大満足♡」

● REC

06:47:01:07

しよっ♡

「次も期待しててね♡
それじゃつまたねえ～」

あみん

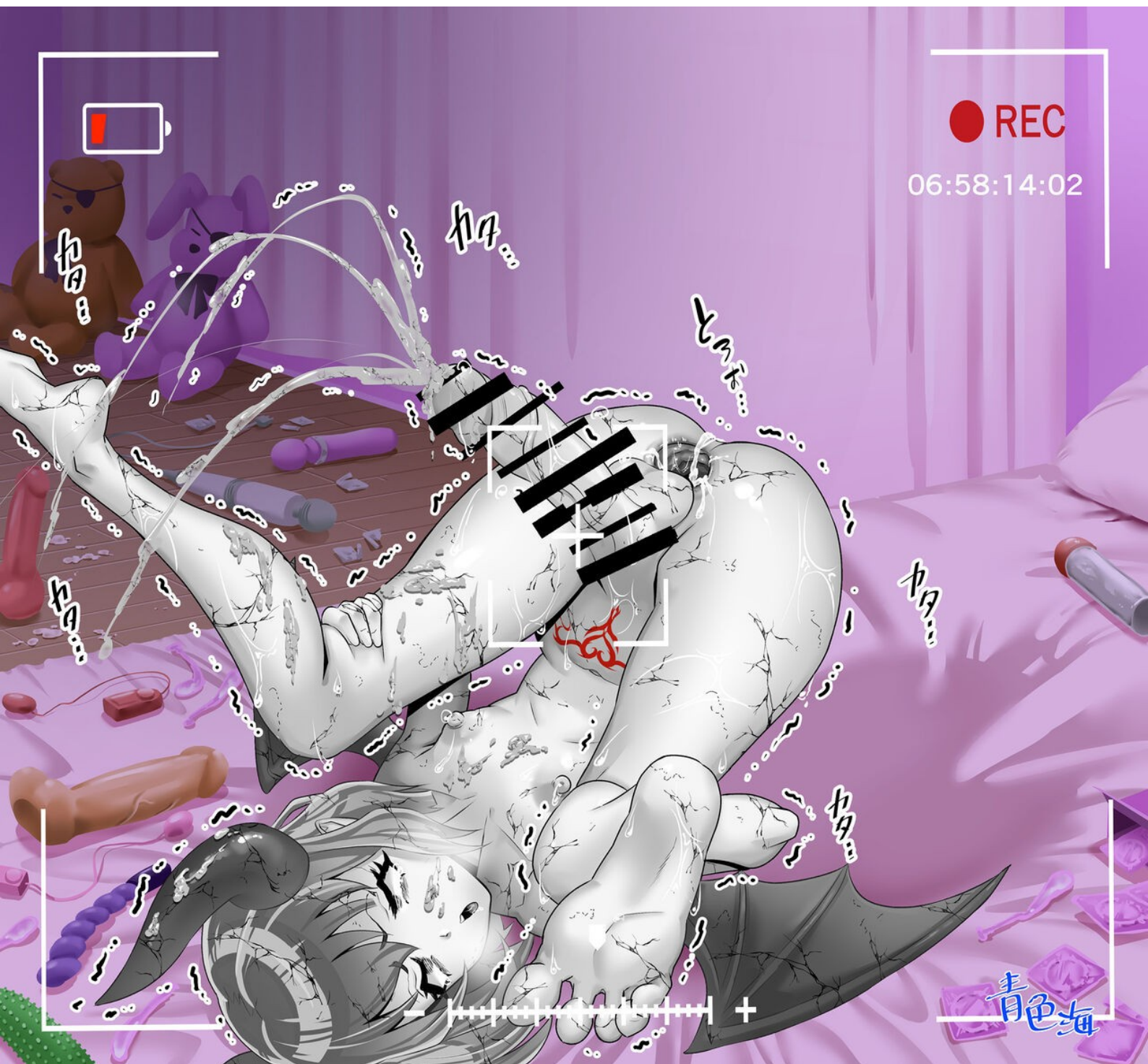
あみん

青色海



● REC

06:58:14:02

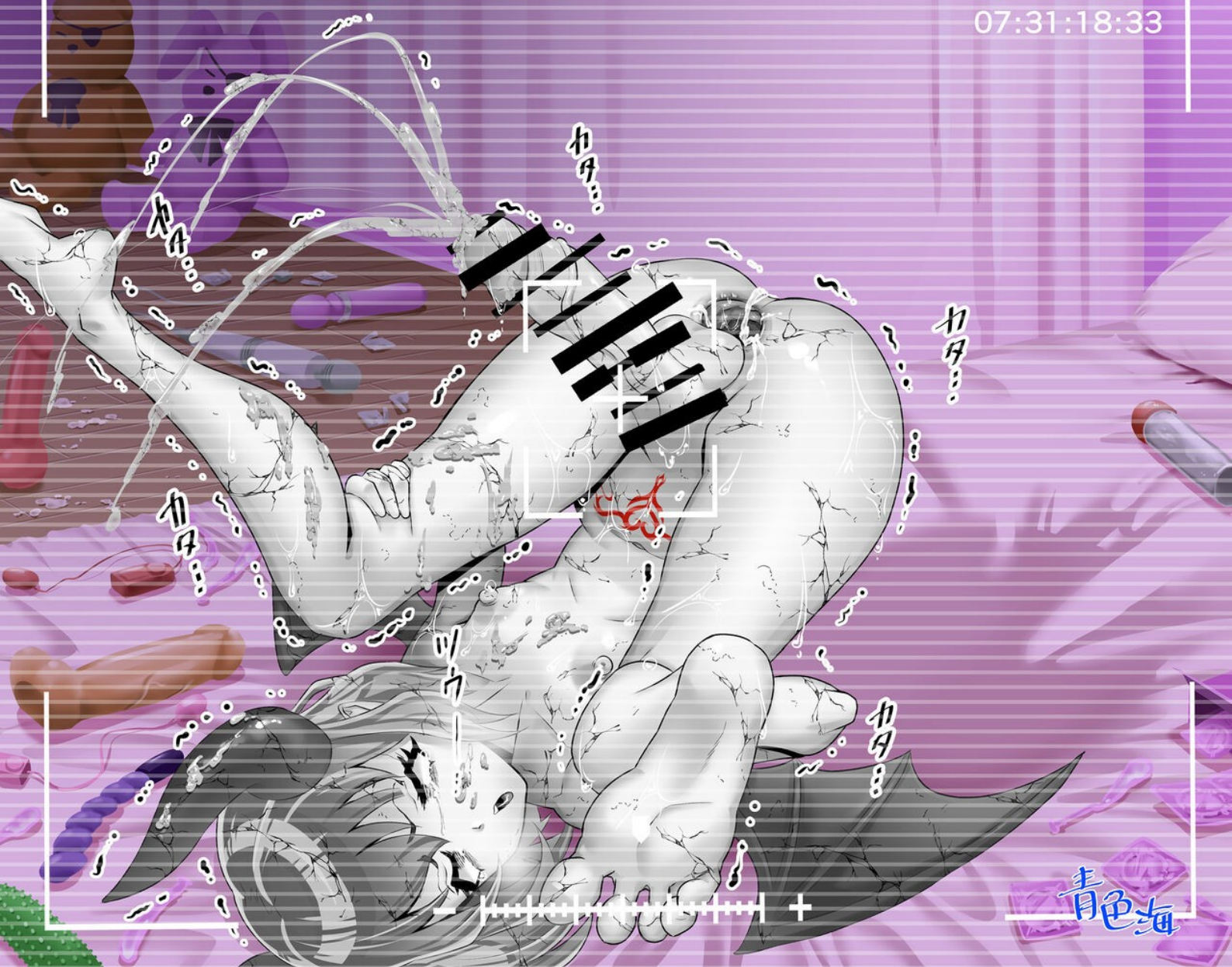


青色海

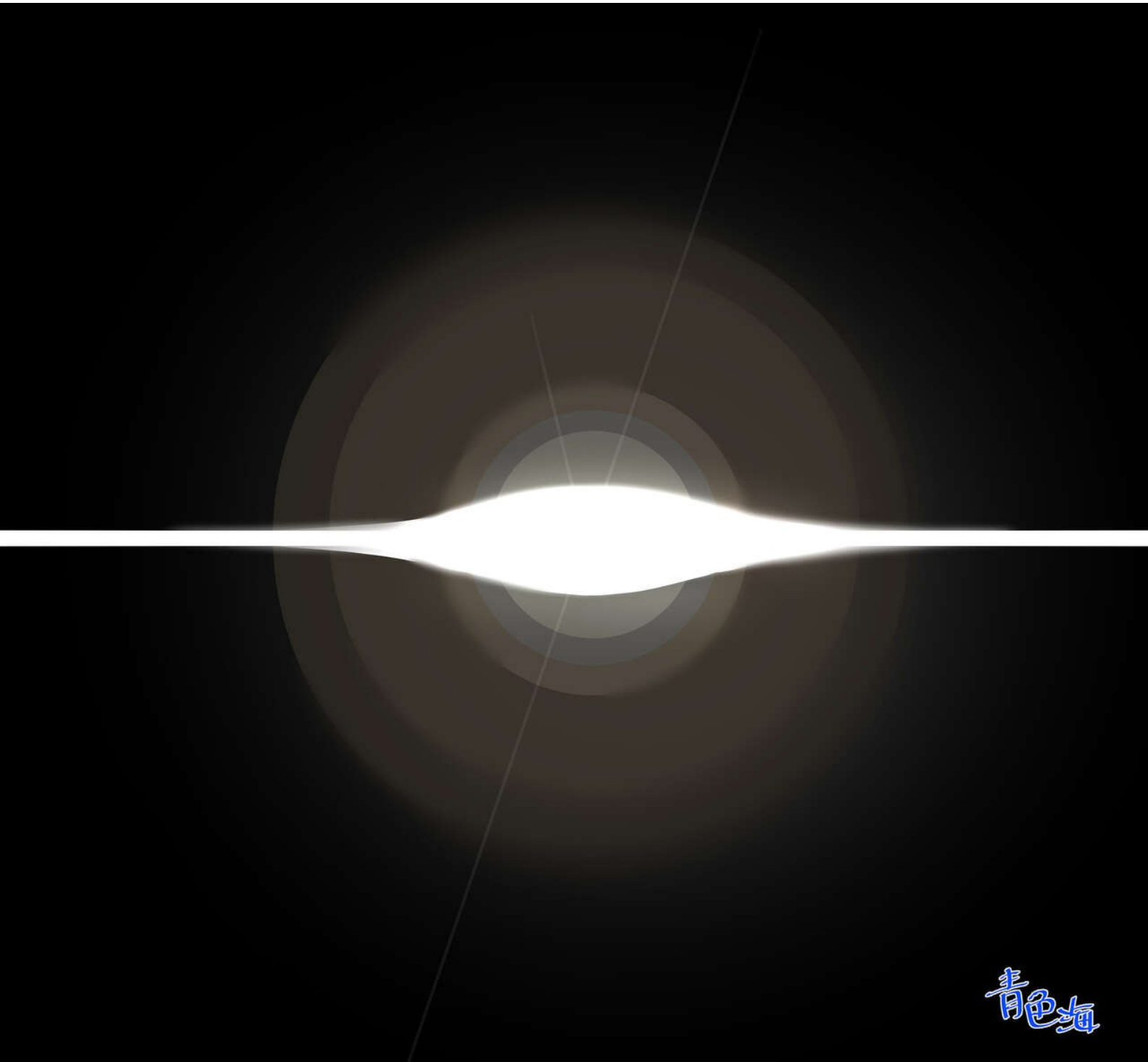
0%

● REC

07:31:18:33



青色海



青海